

## 日常の食卓やリビングで 伊吹の自然をもっと身近に感じられたら。

早川鉄兵さんが創る切り絵で表現された森の動物たちの魅力をどのようにガラスウェアで表現すれば良いか。今回の「彫刻ガラス」はいわゆるカットガラスや切子と言ったシャープで洗練された技法を用いず、マスキングを施し砂を高圧で当てて切削する「サンドブラスト加工」で仕上げることでサラッとしたソフトな風合いを出すことで進めることになりました。

切り絵の持つ2次元でシンプルなシルエットをソフトな印象のサンドブラストで施し、このソフトさにマッチした低彩度のナチュラルなカラーと合わせることで、野原の中にいるようなリラックスした雰囲気を出せるのではないかと試作を重ねています。



まずは早川さんの描く世界観がより自然に伝わるように、使用する素地のガラスの色を最適なものにしなければなりません。森の動物たちに馴染むカラーとして、ビビットな色やサンドブラスト加工の目立たないクリアーを避け、ダークグリーンやブラウン、アンバーなど、森のなかに見えるごく自然な色をセレクトしていきました。



カラーサンプルの制作は、坂東市に工房を構える坂東ガラス工房「秀緑」や、川崎市に工房を構える「彩ガラススタジオ」に依頼してそれぞれのマッチングを検討し、最初の試作品を完成させました。ガラスの色と動物のサンドブラスト加工は良い感じに馴染んできましたが、動物だけでは少々寂しい印象を受けるので、森の賑やかさを演出するために、木の実や草花をスポットで散りばめて世界観の精度を高めてみよう、次の試作に取り組んでいます。



後日、また新たなカラーのガラス素地とカラーバリエーションが仕上がるので、これらから最適なマッチングをセレクトし、多くの人に愛用して頂けるガラスを作っていきたいと思えます。

(つづく)